

ST専攻科の国試合否と基礎学力、 学業成績、実習成績の関係および そこから得られた課題

阿志賀大和（保健言語聴覚学専攻）

国試合格を左右するうえで学業成績、実習成績、基礎学力は重要な要素であり、国試の結果を予測する重要な手がかりである。本学のST養成課程を修了した学生のST国試成績と基礎学力、学業成績、実習成績のそれぞれの成績間について、2009～2013年度の本専攻科入学生25名のうち、転科を行った者、中途退学者を除外し、2014年3月までに国試を受験し自己採点結果を提出した18名の成績を対象に検討を行った。その結果、国試成績と基礎学力の間で最も強い相関を認めた。先行研究においても、国試の得点と入学時基礎学力の得点の間に相関を認めたと報告されており、本研究はそれを支持する結果となった。学習効果を十分に測定できる方法や知識の定着を図る取り組みを実践していくことが必要であると考えられた。そのためには、先行研究でも述べられているように、各学生にとって好ましい条件を整えていくよう教員側で働きかけていくことは重要であると考えられた。特に、本研究の結果から、基礎学力の低い学生に対しては、生活指導も含め学生に合った個別指導を早期から行うことが重要であると考えられた。

第71回（通算第154回）：平成26年9月25日（木）

（座長：丸山 満）

歯科衛生士学科学生の 食生活状況から考える 栄養指導教育〈2〉

平澤明美（歯科衛生士学科）

平成23年「健康日本21」最終報告では、朝食を欠食する人の減少が上げられたが、特に20歳代女性は年々上昇傾向あり、現状でも20%を超え目標値をかなり上回り、評価D（悪化している）とされた。しかし、H12～21とH25の本学歯科衛生士学科学生調査の朝食欠食状況は、全国の同年代女性より良い傾向にあった。H25の調査で特に、2・3年の「栄養指導」関連の授業が終了した学生で、栄養や健康についての知識があっても、「臨地・臨床実習」や「国

家試験対策」の影響があり、朝食欠食の実践に結びついていない状況が示唆された。従って、授業の中で健康・栄養状態の改善について、実生活で実践し、継続を可能にする取り組みが必要であり、（1）2学年後期の「栄養指導」において、「健康と食事」をテーマに取り上げたグループ学習など（2）「主食・主菜・副菜」を組み合わせた食事の現状把握など（3）簡単な朝食メニューの紹介や学生食堂との協力などを今後検討したい。

歯科技工装置説明書の発行に関する 取り組み

榎並拓也（附属歯科診療所歯科技工室）

高橋巧実（附属歯科診療所歯科技工室）

本学附属歯科診療所が技工装置説明書の導入に至った理由は、薬剤師が発行している「お薬手帳」のように、患者に対し歯科技工装置を分かりやすく説明する媒体があれば、当診療所の歯科医療サービスの質的向上に繋がるのではないかと発想からだった。幾度にもわたる技工カンファレンスで検討を重ね、導入に向けた様式を作成した。

現在、診療室で使っている補綴物維持管理・義歯管理の情報提供文書に比べ、担当歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士の記名および歯科技工装置の特徴や使用材料についてわかりやすいように工夫した。

当診療所の担当歯科医師から「写真と説明がついて分かりやすくなっている」、「患者に喜んでもらった」等、一定の評価を得ることができた。

一方、「字が小さくて見づらい」「内製と外注の両方に発行してほしい」「納品時に説明書が濡れて字が滲んでいる」等、書式、発行範囲、添付方法について検討課題が出され、今後さらに当診療所全体で改良していくこととなった。

第72回（通算第155回）：平成26年10月23日（木）

（座長：山田隆文）

メタルフリー審美的クラウンの紹介

井上 篤（沖歯科工業株式会社）

近年では、金属の価格高騰や今後の安定供給の不安から金属に代わる材料の開発が進められている。